

# 図書館の散策

大学院経済学研究科

榎 谷 一 俊

香川大学に入学してから、大学時代も含めるとかれこれ6年が経っていた。しかし、大学時代は図書館とは縁遠い生活だった。このせいか、図書館のややこしい構造がわかってきたのは最近のことである。

香川大学の図書館は、1F、M2F、2F、3F、4Fの五層構造になっている。図書館の入り口である2Fは主に教育・経済・法学の図書が中心においてあり、それ以外の分野の図書は3Fにおいてある。2Fと3Fぐらいいは、誰もがわかるゾーンなのではないだろうか。

しかし、1F、M2F、4Fとなると、だんだんわからなくなってくる。この3つの全体の特徴としては、まずほとんど人がいない、古い本が多いなどである。

個別に紹介していくと、4Fは全部外国の本である。高校時代英語が苦手だったりした人は、1回行

けばもう二度と行かないような場所である。根性がある人は一度行ってみるといいかもしれない。

1F、M2Fについては、ある意味4Fよりすごいかもしれない。なぜなら、日光が入らないから。電気をつけると暗いわけではないが、時間の感覚が全然なくなってくる。だから、ある種異様な雰囲気醸し出しているように思われる。ここの本は主に2F、3Fにスペースの問題や時代背景的に合わなくなったなどの問題で置けなくなった本が置いてある。つまり、書庫である。古い本が多いせいか古本屋に入った時のような感覚がする。

ここまで書いてきて思うのは、この3つの階に人がいないのは当然のような気がする。ここまで偏った階に人が集まるのが珍しいのである。しかし、これらの階ほど大学の図書館というのを感じさせるところもないように思う。たまには、こういう雰囲気を味わうのもいいかもしれない。

.....

## 本学教官著作寄贈図書 (平成10年11月～平成11年3月受付分)

寄贈者	書 名	発行所	発行年
松本タミ (法学部)	図説判決原本の遺産	信山社出版	1998
川勝博 (教育学部)	川勝先生の物理授業 上・中・下巻	海鳴社	1997-1998
川勝博 (教育学部)	学ぶ側からみた力学の再編成	新生出版	1992
川勝博 (教育学部)	いきいき物理わくわく実験	新生出版	1988
秦隆昌 (経済学部)	ロマンス諸語対照スペイン語語源小辞典 (香川大学経済研究叢書 14)	信山社出版	1999
松井康浩 (法学部)	ソ連政治秩序と青年組織：コムソモールの実像と青年労働者の社会的相貌1917-1929年	九州大学出版会	1999
田村道美 (教育学部)	野上弥生子と「世界名作大観」：野上弥生子における西欧文学受容の一側面 (香川大学教育学部研究叢書 7)	香川大学教育学部	1999